

大阪府保育士会だより



# ほほえみ

平成 26 年 3 月 31 日

第 96 号

大阪府社会福祉協議会

保育部会・保育士会

大阪府中央区中寺 1-1-54

TEL 06-6762-9001

保育士研修会が3回(25年9月10日、11月27日、26年2月21日)にわたり、いずれも大阪国際交流センターで行われました。講義の要旨は次の通りです。

25年9月10日

「保育で悩んだ時にたち返りたい発達の視点」

神戸大学大学院

人間発達環境学研究科教授

木下孝司氏

子どもに対する見方が変わると保育の実践が変わります。悩んだ時には、子どもの姿をありのままに捉えること、事実・実態を振り返ることが大切です。

子どもがわざと悪いことをするというような困った行動には必ず理由と願いがああります。しかし、いきなりどうしてかと考えても答えは出ない。「どうなっているの?」という事実や実態を複数の目で確認しておく必要がある。様々な角度から子どもの姿をみながら確認するということです。

事実をみながら出し合うことで、どんなタイミングで困った行動に出るかが絞られ、その理由が見えやすくなっていきます。

初めから難しい議論や解

釈を切り出すと、若い先生

は意見が言えなくなります。

「あなたはどんな事実を見たの?」という問いから始める

と話がしやすく議論が活発になります。同時に、困った行動を「示す時」と「示さない時」の状況の違いに

保育の手がかりやヒントがあることも押さえておきたい

## 保育士研修会

**困った行動には理由と願いがあ** **複数の目で確認しよう** **木下氏**  
**赤ちゃんに学ぶ** **自ら学習する力をアシストするのが役割** **小西氏**  
**他人との比較ではなく自分を日々改善する自己評価を** **松本氏**

る自分・必要とされる自分の3つの自分を子どもたちが感じる事ができるような考え、保育現場を作っていくましよう。

(和泉市 M・Y)

25年11月27日

「赤ちゃんに学ぶ、育つ力!」

同志社大学大学院

心理学研究科教授

日本赤ちゃん学会理事長

小西行郎氏

赤ちゃん学とは小児科学、

せん。動いてふれる経験をいかに充実させてあげるかが保育環境でも大切です。赤ちゃんはまた、産まれる前からすでにコミュニケーション能力を持っています。その二つが表情です。相手の表情に合わせることで感情が生まれてきます。だから、語りかけの愛情よりも、むしろ赤ちゃんから出されたサインをしっかり受け取って返事をしてあげ

る前からすでにコミュニケーション能力を持って

ます。その二つが表情です。

で感情が生まれてきます。

だから、語りかけの愛情よりも、むしろ赤ちゃんから出されたサインをしっかりと

受け取って返事をしてあげ

発達認知心理学、脳科学などの異分野研究の融合による新しい学問分野です。赤ちゃんを総合的、多面的な視点から捉え、一人の人間としてみる考え方を

赤ちゃんととって触覚は重要な感覚です。自ら動き、

触覚を感じることで、周りにあるものは何なのか、誰なのか、自分にとって良いものなのか、悪いものなのかを確認しなければなりません。

赤ちゃんととって触覚は重要な感覚です。自ら動き、

触覚を感じることで、周りにあるものは何なのか、誰なのか、自分にとって良いものなのか、悪いもののかを確認しなければなりません。

赤ちゃんととって触覚は重要な感覚です。自ら動き、

触覚を感じることで、周りにあるものは何なのか、誰なのか、自分にとって良いものなのか、悪いもののかを確認しなければなりません。

赤ちゃんととって触覚は重要な感覚です。自ら動き、

触覚を感じることで、周りにあるものは何なのか、誰なのか、自分にとって良いものなのか、悪いもののかを確認しなければなりません。

がいてことで、初めて自分を確立できます。その出発点に理解してくれる保育士の存在は極めて重要であり、発達障がい療育の場は基本的に生活や遊びを共にする保育園であると考えます。

赤ちゃんと何かしてあげ

ることが育児・保育ではなく、自ら学習していく存在であることを認識し、その力を保育士はアシストしてあげてください。

26年2月21日

「保育計画、実践と自己評価

— 保育の力量の向上 —

大阪教育大学名誉教授

松本勝信氏

(堺市 S・K)

26年2月21日

「保育計画、実践と自己評価

— 保育の力量の向上 —

大阪教育大学名誉教授

松本勝信氏

保育指針は保育の最低基準で告示化された法的拘束力があります。保育士の仕事は子守ではなく子育てをすることです。子守は保護者から預かった状態のまま返すこと。子育てとは保護者から預かった時と返す時と違いをもたせる、つまり育てるということです。子どもの育ちには日案・月案の繋がりが非常に大切です。

指導計画の作成にあたり

(2面へつづく)

# 安全とコミュニケーションはセットで考えよ

## 感情、言動を意識的にコントロールできる能力を

### —近畿ブロック保育士会リーダーセミナー—

25年度近畿ブロック保育士会リーダーセミナーが11月22日、京都市子育て支援センターこどもみらい館で開催され、午前の基調報告、部会報告、三上智代氏（全国保育士会前副会長・現監事）の基調講演に引き続き、午後からNPO法人保育の安全研究・教育センター代表理事、掛札逸美氏（心理学博士）の「保護者のシグナル〜保育者のためのコミュニケーション・スキル〜」と題する講義が行われました。

掛札氏はまず、「大事なものを共有する」というコミュニケーションの語源を紹介し、コミュニケーションとは「相手に自分の伝えたいことが伝わるような形で伝えること、相手が伝えたいことを受け止めること」と述べられました。

そのうえで、「コミュニケーション・スキル」について「相手（自分以外

の人）が悪いと決めつけず、

自分の言動と感情を意識する

こと、自分を見ている自分

分を意識しフィードバック

すること、常に自分の感情、

認知、言動を意識的にコン

トロールできること」と指

摘されました。

さらに、コミュニケーション

とリスク・マネジメント

についてふれ、「安全と園内

コミュニケーションをセッ

トで考える必要がある。自

由に話し合える風通しのよ

### 子育て支援シリーズ 38

## 臨床心理士を配置し「つどいのひろば」

お母さんの悩み事から発達支援まで  
—週1相談日は予約でいっぱい—  
四條畷市 暇たんほほ保育園



されているのが特色です。

「つどいのひろば」は毎週

月曜日の午後が相談日。玄

関が園とは別に設けられ、

プライベートはしっかり守

られています。同園の保護

者や地域のお母さん方の来

園はもとより、時には近く

の方が緊急相談で駆け込ま

れることもあるそうです。

い保育園をつくるのが安全確保につながる」と述べ、「安全」に取り組み、それを伝えることが保護者の信頼を得る。安全とコミュニケーションの両方を確保することが、子どもの命を守り、保育者の仕事と心を守り、保護者に保育の大切さを伝えるための基礎となる」と強調されました。

（東大阪市 N・Y）

（1面からつづく）

大切なのが保育士の自己評価。以下5点を再確認してください。

- ①自己評価は他人と比べ保育がうまい、下手などのラ
- ンク付けのためではない②自己評価は改善を目指す評価である③自己評価として何を、いつ、どんな方法で評価するか④自己評価の客観性、信頼性が問われる⑤

何をどうすれば現状をさらに改善できるかが重要。実践力の自己評価には次のポイントが重要だ。

- （1）子どもの育ちを左右する3種の満足感①命を維持する生理的欲求の満足感（食事、睡眠、排せつなど）②自己実現の満足感（できないことができるようになる喜び）③社会的承認の満足感（仲間、大切、愛情など）

（2）応答的関わり＝心の交流

合います。いろんな職種の職員が在籍、役割分担しながらのチームプレーで、問題解決にもつながりやすいのだとか。

（3）保育士の心の構え 日々の振り返りとして、保育を左右する保育士の体の使い方、特に「あご」の使い方があります。あごを縦に振ることは子どもを肯定的に受け止め応答的関わりを示します。不必要に横に振らないよう気をつけましょう。

子育てに関すること、発達の悩み、家族のこと、不登園（校）、お母さん自身の悩み事など多種多様な相談に対応されています。

「話を聞くことで、イライラした気持ちが整理されま

す。気持ちを落ち着かせる

ような対応を心掛けてい

ることが、子育てに役立っ

ているようです」と臨床心理

士の森川和子氏。

特に発達支援に関する相

談内容によっては、それぞ

れの情報を集めて調査し、

ケース会議で方向性を話し

合います。いろいろな職種の職員が在籍、役割分担しながらのチームプレーで、問題解決にもつながりやすいのだとか。

林あずさ園長は「お母さん方には、ここに来れば話を聞いてもらえるという安心感があるでしょう。保育士にも保護者との対応の中で悩みもあります。行き詰まった時、森川先生に悩みを聞いてもらうことで、心が軽くなったりします」と話されています。

誰かと比較する自己評価ではなく、個人の中で子どもの育ちに合わせ、自分の得意な点、苦手な点を理解し、昨日の自分より今日の自分を少し良くすることを意識して取り組んでください。

（四條畷市 K・M）

（東大阪市 N・Y）

物流停滞も

買置き習慣が

暮らしを守る

先日、農林水産省から、3日〜1週間の備蓄ガイドラインが出された頃、突然の大雪被害が発生しました。今冬の雪害では道路渋滞による物流の停滞が起き、道路での立ち往生が2日以上に及んだところも。今の日本では物流が途絶えれば暮らしが成り立たなくなると。日常生活のもろさが明らかになってきました。

ところが、公共交通が不便なところでは、1週間くらいは特に大変なことではなかったといえます。買い置きの習慣があるうえ、昔からの不便な生活の知恵としての味噌や漬物など保存食の習慣とも相まって食べ繋ぎ、普段と同じ暮らしができました。

まずは飲料水確保

粉ミルクは温めて

火山噴火などの場合、1週間から場合によっては20日近くライフラインが途絶え、補給も困難な状態が続くと予想されます。

その時、まず欠かせないのが飲料水です。最低限で1日一人1リットルが必要で、それも日本の軟水を確認しましょう。特に粉ミルクは硬水では溶けないので、乳幼児を持つ家庭には注意が必要です。また、粉ミルクが冷たい時は使い捨てカイロを容器に密着させタオルに包むと人肌よりも温かくできますので、使い捨て

時にはコーヒーフィルターを通して使いましょう。

加熱のための

カセットコンロや電子レンジ

加熱のための熱源を確保しておきます。1週間分としてカセットコンロのボンベは6本。しかしカセットコンロもボンベの補給がなければなくなった時点で終わりです。

電子レンジ2分で温まらず。電子レンジがなければ湯の中に1パック入れ15分。加熱するための準備も忘れずに。

レンジであれば蓋をして中心部まで再加熱できます。電気での加熱機器として備えておくとういでしょう。レトルト御飯はパックの隅を開けて電子レンジ2分で温まらず。電子レンジがなければ湯の中に1パック入れ15分。加熱するための準備も忘れずに。

シウム不足はこむら返りを起こしやすく、亜鉛不足は口内炎や味覚障害の要因となります。ナトリウム不足も血圧が低くなり意識朦朧となりかねません。危機的な状況からの回復には点滴が欠かせませんが、病院が機能していないこともある。そんな時に常温保存できる乾物の海苔、切り干し大根などを食べることで微量元素を摂ることができます。意識して備蓄し、日常の食事にも取り入れ食べなれておきましょう。子どもにとっても馴染んでおくことが必要で、海苔などは巻き寿司1本分に当たる全形1枚を毎日食べるとかなりの状態改善になります。

学びシリーズ27

「食」から防災を考える④

サカモトキッチンスタジオ主宰 坂本廣子

カイロも忘れずに準備しましょう。

ライフラインが途絶えたあと、日常生活が再開し、一番先に戻ってくるのが電気です。阪神淡路大震災では3ヶ月かかりました。電気製品では、特に電磁調理器が普通のコンロとして使えます。それも100Vの一口の電磁調理器をお勧めします。

電気を使う加熱器で便利なのが電子レンジ。電子レンジであれば蓋をして中心部まで再加熱できます。電気での加熱機器として備えておくとういでしょう。レトルト御飯はパックの隅を開けて電子レンジ2分で温まらず。電子レンジがなければ湯の中に1パック入れ15分。加熱するための準備も忘れずに。

カルシウムなど微量元素不足に対応しよう

災害はいつときですが、復興には長い年月が必要で、人間の体は大きなストレスがかかるとカルシウム、マグネシウム、亜鉛などの「微量元素」を普段以上に消費してしまいます。微量元素は取り過ぎてもいけません。少な過ぎると体のバランスを崩します。マグネ

アレルギー体質の人に配慮を忘れないで

アレルギーのある人には食の配慮をしましょう。特に小さな子どもさんには、誤食を防ぐためのアレルギーたすきをかけ、食品をわ

のを先に選ばせてあげてください。命にかかわることですので周囲で十分に気をつけなければなりません。

地域備蓄を实践、共助力で災害を乗り越えよう

4回にわたり食べることから防災を考えてきました。防災は特別なものではなく、日常の食事の中にサイクル備蓄しておけばいつでもすぐに使える備蓄になります。災害に見舞われたからといって、いきなり非日常の災害食に代えるのではなく、日常の食事の延長線上で考えましょう。

準備をしても無駄になると言わずに、地域備蓄として考えましょう。一人ひとりが備えを怠らなければ、共助力として地域みんなですぐに助かることにつながります。物流が止まっても、それぞれの家に備蓄があるので持ちこたえることができます。命を守るための小さな努力、それが理不尽な災害を乗り越え、後悔のない立ち上がりができる元になるのですから。

ライフラインが途絶えたとき、まず必要なものは飲料水です。最低限で1日一人1リットルが必要で、それも日本の軟水を確認しましょう。特に粉ミルクは硬水では溶けないので、乳幼児を持つ家庭には注意が必要です。また、粉ミルクが冷たい時は使い捨てカイロを容器に密着させタオルに包むと人肌よりも温かくできますので、使い捨て

電子レンジ2分で温まらず。電子レンジがなければ湯の中に1パック入れ15分。加熱するための準備も忘れずに。

シウム不足はこむら返りを起こしやすく、亜鉛不足は口内炎や味覚障害の要因となります。ナトリウム不足も血圧が低くなり意識朦朧となりかねません。危機的な状況からの回復には点滴が欠かせませんが、病院が機能していないこともある。そんな時に常温保存できる乾物の海苔、切り干し大根などを食べることで微量元素を摂ることができます。意識して備蓄し、日常の食事にも取り入れ食べなれておきましょう。子どもにとっても馴染んでおくことが必要で、海苔などは巻き寿司1本分に当たる全形1枚を毎日食べるとかなりの状態改善になります。

アレルギー体質の人に配慮を忘れないで

アレルギーのある人には食の配慮をしましょう。特に小さな子どもさんには、誤食を防ぐためのアレルギーたすきをかけ、食品をわ

地域備蓄を实践、共助力で災害を乗り越えよう

4回にわたり食べることから防災を考えてきました。防災は特別なものではなく、日常の食事の中にサイクル備蓄しておけばいつでもすぐに使える備蓄になります。災害に見舞われたからといって、いきなり非日常の災害食に代えるのではなく、日常の食事の延長線上で考えましょう。



地域とともに  
ふれあい大切に

# 月1回の園児と

## 高齢者の交流の場

—どんぐりの木の下で  
夢を育てる多彩な触れ合い

松の木保育園

松の木保育園（太子町）は毎月1回、園児たちが歩いて約15分の町立総合福祉センターを訪問し、高齢者のみなさんとふれあう場を設けています。

同センターの約30人の高齢者と園児たちはペアになり、色紙で季節の花や七夕飾り、クリスマスツリーなどを作ったり、おしゃべりを楽しみ、手遊びや歌をうたって過ごすごです。

今年1月には、凧を作っ



て凧上げを楽しみました。園児たちはお年寄りから凧の上げ方を教えてもらい、高く舞い上がると歓声をあげて大喜び。

高齢者の方からは「子どもとの相手をしていると、退屈せえへんし、長生きできる」と会話も弾みます。核家族化で高齢者とふれあう機会が少ない園児には貴重な体験でしょう。月1回の園児の訪問が高齢者のみなさんの活力になっているのではと感じられます。

「保育の工夫—現場を訪ねて—」

## キャンプ、フラフープ、 金剛山雪遊びを体験 一年長クラス

1年通じ半袖半ズボン、たくましい心と身体づくり  
橋本保育所



橋本保育所（貝塚市）は開所以来今年で43年目を迎えます。平成17年に増築され、現在の定員は190人です。

豊かな自然環境の中で心身ともに健全な子どもの育成を願い、はだし保育、かけっこ、マラソン、乾布摩擦を取り入れ、1年を通して

いへん微笑ましい光景です。同園では定期的に園庭開放を実施されていますが、民生委員児童委員の方が来園され、地域情報の交換の場にもなっているとのこと

です。地域の様々な方とのふれあいが、どんぐりの木の下で繰り広げられていることに夢を感じました。

て半袖半ズボンで活動されています。

毎年、年長クラスは「キャンプ」「フラフープ」「金剛山での雪遊び」を体験します。

キャンプは「紀泉わいわい村」で1グループ5〜6人に分かれ活動。川遊び、すいか割り、クッキング、

「少子高齢化がすすみ、昼間に走っている車は高齢者送迎用車が多くなっています。子どもたちの地域との関わり方をみんなで考えていきます」と、地域のなかでの保育園の役割に積極的に取り組まれている松井史郎園長のお話でした。

（大阪狭山市 K・J）

肝だめしなど盛りだくさん。肝だめしは夜道を励まし助けあい、先生が待つゴールへ。たどり着いた時の子どもたちの達成感は一ひとしお。

体操保育の中に取り入れられているのがフラフープ。最初はうまく回せない子どもも、根気強く練習している友だちの姿を見て「自分もやってみよう」という気持ち

練習を重ねる姿を、保育士は励ましながら見守るそうです。そのうちに全員が回せるようになります。子どもたちの力を信じるのです。自分の力で技を覚え、「先生見ててな」と、器用にフラフープを操り走ったり、ジャンプしたり。そんな

卒園式を終え、息をたく間もなく新年度準備と、慌しい1年を締めくくりましたが、さあ、また新たな1年が始まろうとしている今日のごとです。

冬は金剛山雪遊び。雪に覆われた急な山道を登りまったり、そり滑りをしたり、雪合戦を楽しみ、思いっきり身体を動かします。

これらの行事を通じて、子どもたちは「最後まで諦めなければ、何でもできる」ことを学んでくれるのでしよう。

（貝塚市 M・H）

おかげさまで25年度の保育士会事業も無事に終わり、会員のみなさんのご要望に

などときの表情はいかにも得意気だたくましい限り。

一つ技ができるとフラフープにシールを貼ってもらえるのも意欲につながっているようです。秋の運動会ではクラス全員で音楽に合わせて回し、演技をやり終えた時は周囲も感動させられます。

冬は金剛山雪遊び。雪に覆われた急な山道を登りまったり、そり滑りをしたり、雪合戦を楽しみ、思いっきり身体を動かします。

これらの行事を通じて、子どもたちは「最後まで諦めなければ、何でもできる」ことを学んでくれるのでしよう。

卒園式を終え、息をたく間もなく新年度準備と、慌しい1年を締めくくりましたが、さあ、また新たな1年が始まろうとしている今日のごとです。

おかげさまで25年度の保育士会事業も無事に終わり、会員のみなさんのご要望に

などときの表情はいかにも得意気だたくましい限り。

一つ技ができるとフラフープにシールを貼ってもらえるのも意欲につながっているようです。秋の運動会ではクラス全員で音楽に合わせて回し、演技をやり終えた時は周囲も感動させられます。

冬は金剛山雪遊び。雪に覆われた急な山道を登りまったり、そり滑りをしたり、雪合戦を楽しみ、思いっきり身体を動かします。